

# おおいた 法の海

第 44 号

発行所

浄土真宗本願寺派

大分教区基幹運動推進委員会

〒874-0920 別府市北浜3丁目6-36

本願寺別府別院内

TEL 0977-22-0146

FAX 0977-24-7831



## 初 参 式

### つながる「いのち」 出会う「いのち」

今年も、お盆を迎えられた「今日のいのち」を頂きました。しかし、また会えると思つて別れたあの方とは、最後の出会いになつてしまいました。

昔から「息が止まった」とは言わずに、「息を引き取った」と、「いのち」の語源は「息(いき)のうち」であり、故人の最後の一息を止めることなく、一息の続きをこの私が引き継ぐ。そして、いのちの尊さ・仏願を、受け取る。この心が「息を引き(継ぎ)(受け)取る」ことであり、死んで終わりにしない生き方につながっていきます。人の「いのち」は、はかなく消え、去っていくものではなく、時空を越えてつながり、共にいのちかがやく世界へ、受け継がれていきます。

地球誕生から46億年。2億種類の生物が進化して現在200万種類の中の間人。先祖は、30億年前のバクテリア、父母が2人・祖父母で4人：10代で1024人：30代で約10億人の欠けることなく父母の命を受け継いできた私、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の迷いの六道から、生まれ難き人間に生をうけた「いのち」なのです。阿弥陀さまに願われて、今ここに、私の生かされて生きる「いのち」があります。限りある「いのち」だからこそ、限りなき「無量寿」の阿弥陀さまとの出遇いをさせていただきます。

合掌

(前少年連盟委員長・光楽寺 摂受定信)

某月某日、某寺にて。

★ ★

**A子** 御院家さん、お通夜の時に葬儀屋さんの入り口に、還るといふ字と浄らかといふ字が書いてありましたが、カンジヨウと読むのですか。

**住職** ああ、あれはカンジヨウではなくゲンジヨウと、呉音で読むんですよ。

### 仏教的でない「忌中」

**A子** 昔は「忌中」という言葉がよく使われていたように思いますが……。

**住職** 「忌中」という言葉は仏教的ではないから「還浄」の語が作られたようですね。

**A子** どういうことですか。

**住職** 「忌」は物忌みをする・

忌み嫌うの「忌む」という字が使われますが、「忌中」には、人の死のケガレが移るから注意しなさいと警告するような感じがあります。

それに対して仏教では「生死一如」といって、生と死を一枚の紙の表裏のように切り離せない関係と見ていくのです。今生きていることは死に向かっていることであり、今死んでいないことが生きていることなんです。たとえば、死なない方法が一つあるんですけど、何だと思いませんか。

**A子** 何でしょう。わからない

### 初めて往くのでは？

**A子** それで、還浄という言葉はどういう意味ですか。

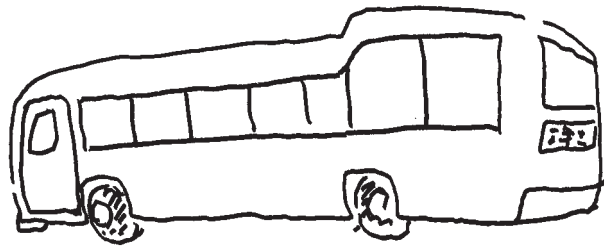
**住職** 親鸞聖人が和讃に、恩師

ケガレが移るから死ぬわけではないのです。

## ペンペン草の境内地

⑮ 還 浄

お浄土行きのバスは  
6時に出発  
いたします。



けど、ぜひ聞きたいですね。

**住職** 生まれたいことですよ。  
**A子** なーんだ、今更聞いてもどうにもなりませんね。それぐらい、生と死はつながっているということですね。

**住職** そうです。生まれてきたから死ぬのであって、人の死の

法然上人の亡くなられた時のことを「浄土に還帰したまへり」と詠われたところから取ったよ

うで、亡き人は浄土に還られて仏さまになられたという意味でしょう。

**A子** でも、亡くなられた方は浄土にカエルのではなくて、初

めて浄土にイクのではないですか。

**住職** 初めてイクのにカエルという言葉を使う場合が、生活の中でもあるんですよ。

たとえば、里帰り出産の時です。お母さんが赤ちゃんを連れて嫁ぎ先に戻って来るときに、嫁ぎ先のおじいちゃん・おばあちゃんはおかえりなさい」と言って赤ちゃんを迎え入れるのではないですか。なぜ「いらつしやい」ではなくて「おかえりなさい」と言うのでしょうか。

**A子** お母さんと一緒に来るからでしょうか。あるいは、本来住むべき家に来るからでしょうか。

**住職** 実はお浄土への生まれ方もそれと一緒にです。私に生涯寄り添ってくださる南無阿弥陀仏の親様とともに、本来住むべきお浄土に生まれるから、カエルと表現することも可能ではないかと思えます。

ただ、「忌中」の代わりに言葉を考えるのが間違いで、何も書かないのが正解だと聞いた事もありますから、「還浄」という語を使いなさいということではないですよ。

## 掲示伝道

### 簡易法語掲示板

【耶馬溪組 円照寺】



毎月、その月に合わせ、心に響いた言葉を、坊守様書いていらつしやいます。毎月言葉を選ぶのが大変だそうです。子どもを送迎する若い方の心に少しでも届いてくれればと思います。若く、書かれるそうです。今は、若く坊守様と、交代でされています。今月は若い坊守様です。



# 日常の中の仏教(1)

東 光 爾 英



## 【合掌、礼拝】

今回から身近な仏事作法や仏教にかかわることがらについて考えてまいりたいと思います。

まず、今回は作法の一番基本となる合掌、礼拝について。

合掌の形は、古代からインドで行われてきた礼儀作法です。これが礼儀作法となったことは、色々の意味づけがあるでしょうが、姿勢そのものが非常に静かな、また相手を敬う形であり、均整のとれた美しい姿勢であることは重要な意味をもっています。しかし、もう一步立ち入って考えるならば、この合掌の姿の中には、自分の本来の姿をあら

らわにし、相手に対して何らの隠し立てもすることなく、素直に相手を信頼する思いがあらわされていると言えます。

一般に、インドの人には、現在も右手と左手とを使い分ける習慣があります。これは仏教ではなく、アーリア人の考え方はらくるものですが、右手は「神聖な手」、左手は「不浄な手」と考え、神聖な手と不浄な手を合わせることは、そのような両方を兼ね備えている自分の姿を、相手に示すことになるわけです。また、インドでの挨拶の言葉「ナマステ」は、ナモ・アストウ・テー「(私は) 帰依(信頼)をこのようにします、あなたに。」

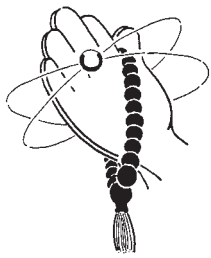
と言つて合掌をするのです。この意味からも合掌が、自分をさしあげだす、と同時に、相手への信頼をあらわす姿であることがわかると思います。

仏教においても、この意味をもつ合掌を用いて、仏様を礼拝する形としてきました。玄奘三蔵法師の『大唐西域記』巻第二(大正藏卷五十二)にはインド

の仏教作法について記されており、左手親指を他の指で握り、拳を作つて右手でそれを覆つて胸につけ、肘をはる、など九種類の合掌による礼拝が説明されています。又『観経』には「合掌叉手」(註釈版一〇九、一三頁)と書かれ、指と指を組み合わせ右手を上側から左手にかぶせる合掌を説いています。

仏教での合掌、礼拝は、仏様に対する尊敬のこころを表し、しかも仏様にむかつて一心である、二心(ふたごころ)の無いことを示しています。

浄土真宗での合掌、礼拝は、私のあてにならない心をみすかし、さらに心配し、かならず仏にさせようとはたらきある願いに



をかけてくださる阿弥陀如来様に対する報恩謝徳と帰依(信頼)の心を、具体的に形に表したものといえましよう。また、そうした阿弥陀如来様のみ教えを、まず聞いてゆくことから始めようという姿でもあると思います。

私自身の本当の心の姿には自分ではなかなか気づきません。知識で相手を思いやる大切さを知つていても、縁にふれて自己中心の心が起こり、そのために自分が生み出した不満に苦しむのです。こうした自分自身には、自分でも気づかないし、それを知らうともしない私であります。しかし、そんな私が手を合わせるとき、自分の姿を見られる、そしてはたらき続けてくれる阿弥陀如来様がいらつしやることを感じる事が大切だと思いま

す。

形だけ手を合わせても、心がなければだめだ、という方もいらつしやいますが、まず形から始めてゆくことも大事なのではないでしょうか。

### 東光爾英氏プロフィール

東光爾英(とうこうちかひで)一九五四年、大分県に生まれる。龍谷大学大学院博士課程仏教学専攻修了、本願寺派宗学院卒業、元龍谷大学講師。現本願寺安居主事、専修科講師 大分教区大海組徳応寺衆徒。



### 三蔵法師

経蔵・律蔵・論蔵の三蔵に精通した僧を言います。

経蔵・律蔵・論蔵の三蔵

を翻訳する高僧の敬称として用いられることが多い、と言われています。

有名なのが西遊記の物語で孫悟空などを伴い、経典を求めてインドへ旅する僧玄奘(六〇二〜六六四)です。





# ビハラー法話

## 『心の交流』

ビハラー大分代表 大内 智乗



今から二十五年前、私が二十五歳のとき、開教使でアメリカに行つて、一カ月位経つたときのある日の夜中、ある病院から電話がありました。病院の人が、「ずっと入院していた仏教会の門徒さんが、危篤状態になりましたので、すぐ来て下さい」というのです。

彼女は、九十歳の老人で、身寄りの者は誰もいなかったのです。私は、病院へ行き、彼女の病室へ入りました。そこには、スパゲティ症候群の彼女がベッドに横たわっています。腕には点滴や計測のための管が取り付

けられ、口には酸素吸入マスクがつけられていました。看護師から、彼女には一人の見舞い客もないことを、また、医師から、彼女の命はあと五分ともたないことを知らされました。

私にとつて初めての体験です。電話を取ったとき、ある種の死への恐怖から、死にかかつている人を目の前にして、何が出来るのか、また、その人に、何を話せばいいのだろうかと思いつた。そして、車で病院へ向かう途中も、病院に着いて彼女の病室に入るまで、話に行こうか、行くまいかと、迷っていました。

『死の近いあなたに愛の手を』  
私はあなたのそばに立つて  
あなたは苦痛とたたかう顔を見た  
あなたは知らない人なので  
私は邪魔をすまいと思っていた  
あなたは 健康な私たちと異なっていた

私は そういうあなたと関係し  
たくなかった  
あなたは 誰かと話すことを必要としている  
その誰かは 私であるのか  
他の人であるのか  
自分は どうしようかと戸惑った

しかし 思い切つてあなたの名前を聞いてみた  
心の中では あなたから逃げたかつたのに  
私はあなたのそばに寄り 話してよいかと問うてみた  
私の勤はあたっていた  
あなたは苦痛にあり あなたは誰かと話したかつた  
私の訪問は あなたの心と苦痛を安らげた  
私の心も安らいだ 私は発見した

他の人も 私と同じように助けは欲しくとも  
たずねるのがこわいのだ  
ドアン・パーカー教授が  
『あなたは、誰かと話すことを必要としている』  
ギリシャの学者は  
『死が怖いのではない 一人で死んで行くのが怖いのだ』  
と言っています。  
彼女は、一人ではなく、私のそばでなくなりませんでした。

しかも、ニッコリと笑いながらなくなつていきました。



## あとがき

昨年・今年と、ご縁のある方々のお別れが続きました。その度に「白骨のご文章」を、いただきました。何回聞かせていただいても、涙がこぼれます。辛い思いの中で、ふとある掲示板に目が留まりました。「フツテヨシ ハレテヨシ シンデヨシ イキテヨシ」この言葉を繰り返して読んでみると、肩の力がフツと抜けていく様な気がしました。いつも「阿弥陀さんにお任せすれば良い」と、言っているのに、お別れする悲しみが強くて、亡くなることへの辛さが、死を必要以上に強く感じていた様でした。「シンデヨシ イキテヨシ」自分らしく生きる事が、とても楽になつた様な気がしました。

# みほちゃん

